

## 「カマキリの赤ちゃん (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

金曜日の朝、3年生の女の子が「先生、大変です、大変です。」と騒いでいる。「何が大変なのか」と聞くと、「カマキリの卵の袋が大変です」と言う。その「袋」の周りには、すでに人だかりができていた。



これは確かに「大変」である。一塊の卵のうから、カマキリが一斉に孵化したのだ。この袋の持ち主は、虫好きの子どもで、どこかで見つけてきたカマキリの卵のうを、チャック付きのポリ袋に入れて「飼って」いたのだ。そのまま半ば忘れて、そのまま学校に放置していたら、ある朝、こんなことになっていた・・・というわけだ。

ざっと 200 匹はいるだろう。右側の穴から逃げ出しているものもある。何人もの子どもが、かわるがわる持つので、袋の端のほうにいるカマキリは、つぶれて死んでいる。「持って帰って観察してから、逃がす。」と言っていたが、そのまま置いて帰ってしまった。



私は何匹か拝借して、観察してみることにした。小指の先に簡単に載せることができる。逆さにしても、息を吹きかけても、決して落ちない。そういえば、カマキリの赤ちゃんが、卵のうにしがみついている写真をよく見る。「しがみつく」ということが、生き残る上で最も重要な能力なのだろう。



大きさは蚊よりも少し大きい程度だ。しかし、不完全変態のカマキリは、生まれたばかりの赤ちゃん（幼虫）でも、ほとんど成虫と同じ形をしている。決定的にちがうのは、翅がないことだろう。これは、面白い観察対象が手に入った！（つづく）